

『公益財団法人どうぶつ基金要請書（令和4年12月22日）に対する回答に対する反論と再度の要請』に対する回答

公益財団法人どうぶつ基金
理事長 佐上邦久 様

令和5年1月18日付でお送りいただいた標記の要請について、以下のとおり回答いたします。

アマミノクロウサギの個体数の増減には様々な要因が関係しており、それぞれが寄与している割合を数値で示すことは困難ですが、増加率の比較をもってノネコ捕獲の効果が無いとはいえ、むしろ、最後に奄美大島でマングースが捕獲された2018年以降も増加傾向が続いていること、また、少なくともノネコの捕獲によりアマミノクロウサギの直接的な捕食による影響は減少していることから、2018年に開始したノネコ捕獲事業がアマミノクロウサギの個体数増加にプラスに働いていると考えています。

引き続き、関係機関と連携して、奄美大島におけるノネコ対策の効果について各種モニタリング結果に基づく科学的な検証を進めていきます。